

検討の観点からみた内容の特色

検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所
<p>⇒取り扱っている内容は、学習指導要領に示す目標・範囲に適合しているか。</p> <p>⇒教育基本法や道徳教育との関連から、取り扱う内容はどのようになっているか。</p>	<p>◆学習指導要領に準拠し、厳選された歴史的事象を多面的・多角的に考察することによって、各時代の特色をとらえ、我が国の歴史の大きな流れを理解するとともに、我が国の歴史に理解と愛情を深め、国際社会に生きる民主的で平和な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎が養える内容になっている。</p> <p>◆歴史の大きな流れと変革期を重視し、人々の姿を生き生きとえがきながら、各時代の学習を通して、人間尊重、平和・環境を守る態度を培う構成が貫かれている。</p> <p>◆日本史を、世界の歴史を背景に理解できるようにしている。前近代においては東アジア史のなかで、近現代は世界史のなかで日本史を系統的に記述している。</p> <p>◆教科書全体が人間尊重の考え方を基本理念として構成されており、取り上げられている教材は、人権尊重・男女平等などの観点から適切に選択されている。</p> <p>◆各時代の文化の学習では、その文化の特色を当時の社会のようすとからめて理解させるとともに、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせ、我が国や郷土を愛する心情を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育てる内容になっている。</p>	<p>⇒P.2-5</p> <p>⇒P.6-9</p> <p>⇒P.10-11</p> <p>⇒P.6-11 P.22 P.26-28</p>
<p>⇒基礎的・基本的な知識・概念や技能の確実な習得を図るために、どのような創意・工夫をしているか。</p> <p>⇒思考力・判断力・表現力等を養う言語活動の充実について、どのような創意・工夫をしているか。</p> <p>⇒図版は、生徒の興味・関心を喚起するもので、かつ読み取りやすいものに工夫されているか。</p>	<p>◆本文は原則1授業時間＝見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのが「学習課題」で明確に示されている。また、右ページの側注欄には「学習の確認と活用」が設けられ、学習のポイントの確実な定着をねらいとした学習活動や、自分の考えを説明することを促す問いかけが提示されている。</p> <p>◆学習に必要な情報を適切かつ豊富に掲載し、生徒の学習を支援している。</p> <p>本文 本文は、十分な文字量を確保し、平易な表現で歴史の流れや因果関係を丁寧に叙述している。</p> <p>時代・世紀のスケール 本文ページの左端には、時代や世紀を示すスケールを配置し、学習している時代や世紀を前後の時代も含めて常に確認できるように工夫している。</p> <p>キーワード 見開き内でポイントとなる言葉を示しており、「学習の確認と活用」の問いかけに答えるときなどに、活用することができる。</p> <p>基本用語 歴史を理解する際に重要な用語解説が本文ページ内に設けられており、生徒がすぐに確認できるようになっている。 ⇒基本用語一覧 (P.5)</p> <p>言語活動コーナー 図版の内容を読み取ったり、読み取ったことをもとに思考・判断・表現したりする活動が、適宜設けられている。</p> <p>○○史+α(コラム) 本文のねらいに即した具体例を取り上げ、学習に発展性をもたせている。</p> <p>連携コーナー 小学校社会科の学習や地理・公民・地図帳の学習とのつながりが示され、生徒の理解を確かなものにするとともに、より発展できるようにしている。</p> <p>小年表・小地図 歴史的事象の流れや起きた場所がすぐに確認できるように、側注欄などを利用して、小年表や小地図が適所に掲載されている。</p> <p>スキルUP 歴史の学習を進めるにあたって必要な知識・技能を解説している。 ⇒スキルUP一覧 (P.5)</p> <p>◆「言語活動コーナー」や「学習の確認と活用」に代表されるように、毎時間、言語活動を設定している。また、各時代の「導入」と、「まとめ」にあたる「学習の活用—とらえよう！ 時代の特色」のほか、各時代の前半部分の「とらえよう！ 時代の転換」などの節目にも言語活動を設定し、生徒がわかったことを自分の言葉で表現する活動ができるように構成されている。これらは、課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・協働的に学んでいく「アクティブ・ラーニング」にも対応している。 ⇒とらえよう！時代の転換 (P.44-45, 66-67, 126-127, 174-175, 254-255) ⇒学習の活用—とらえよう！時代の特色 (P.56-57, 94-95, 144-145, 202-203, 242-243, 278-279)</p> <p>◆図版は、本文との関連が的確で、時代像を具体的にイメージできる資料が豊富に掲載されている。特に文化や生徒の関心の高い「衣・食・住」のようすなどは、古代・中世・近世・近代・現代の各時代に「図版特集」を設定して、大きく掲載してある。 ⇒図版特集 (P.42-43, 88-89, 106-107, 124-125, 172-173, 262-263)</p> <p>◆図版には、「言語活動コーナー」を添えて、読み取りに有効な視点を与えている。また、資料の大きさを示したり、実物大で掲載したりして教材価値を高め、資料を読み取る生徒の意欲を喚起し、資料活用能力の向上を図るよう工夫している。</p>	<p>⇒P.18-19 P.20-21</p> <p>⇒P.4-5 P.18-19</p> <p>⇒P.14-15</p> <p>⇒P.18-19</p>

検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所	
<p style="writing-mode: vertical-rl;">内容の選択</p> <p>⇒歴史的事象等の選択は、どのようになされているか。</p> <p>⇒歴史上の人物について、どのように選択されているか。</p> <p>⇒各時代の文化に関する内容は、どのように選択されているか。</p> <p>⇒我が国の歴史の背景にある世界史とその関連について、どのような工夫があるか。</p> <p>⇒基本的人権などの今日的課題にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。</p> <p>⇒我が国の国土と歴史への理解と愛情にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。</p> <p>⇒最新の発掘成果や近代化遺産・世界遺産などのトピックがどのように選択され位置づけられているか。</p>	<p>◆学習指導要領の趣旨に基づいて、各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的事象を重点的に取り上げ、我が国の歴史の大きな流れを的確におさえられるように、学習材を厳選している。</p> <p>◆本文では、我が国の先人たちが努力を積み重ね、社会や文化を発展させ、生活を豊かにしてきた歴史的過程を理解できるように記述している。また、「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」などの特設ページやコラムにおいても、問題解決に取り組んだ先人の姿を具体的に紹介している。 ⇒先人に学ぶ (P.76, 91, 140-141, 200, 238) ⇒歴史を掘り下げる (P.201) など</p> <p>◆文化史については、代表的な事例を取り上げて、網羅的な取り扱いにならないように配慮している。また、各時代の文化を我が国の歴史の大きな流れと諸外国との交流のなかで学び、その特色を広い視野から考えられるようにしている。 ⇒文化史の学習 (P.37, 46-47, 51, 70-71, 86-87, 112-113, 132-133, 138-139) など</p> <p>◆我が国の国宝や世界遺産などを豊富に紹介している。さらに、文化財の保護・継承に大きな役割を果たした先人や現在の取り組みも紹介して、受け継がれてきた伝統や文化を大切に思い、引き継ぐ態度を養おうとしている。 ⇒先人に学ぶ (P.76, 180) ⇒歴史を掘り下げる (P.142-143) など</p> <p>◆世界の古代文明や宗教のおこりなど、世界史の教材が充実している。また、各編・章の導入に「地図で見る世界の動き」をおき、世界のようすを概観して学習を始め、世界の動きのなかで日本史をとらえるように単元が構成されている。 ⇒地図で見る世界の動き (P.98-99)・本文ページ (P.100-105) など</p> <p>◆今日の私たちに保障されている基本的人権は、先人の多年にわたる努力の成果として獲得されてきたものという観点から、部落差別のほか、女性・アイヌ・在日外国人などの基本的人権にかかわる内容は、歴史的な経緯と現在の取り組みを本文でしっかりと記述しており、特設ページの「歴史を掘り下げる」でも、人権に関するテーマを充実させている。 ⇒歴史を掘り下げる (P.90, 164-165, 272-273) など</p> <p>◆現代社会で起こっている人権・環境・平和などの課題については、その歴史的背景を、各時代を追って明らかにし、これらについて正しい認識をもつように教材を位置づけている。また、これらを自らの問題としてとらえ、その解決をめざして行動できる態度を培おうとしている。 ⇒先人に学ぶ (P.91, 140-141, 200, 238, 274-275) など</p> <p>◆身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を育てるとともに、地域の具体的な事例との関わりをなかで我が国の歴史を理解させようとしている。また、取り上げられた事例は、その調べ活動を通して、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めるとともに、我が国の歴史について親近感と理解を深めることができるテーマが選択されている。 ⇒でかけよう！地域調べ (P.54-55, 92-93, 114-115, 181, 240-241, 276-277)</p> <p>◆日本の豊かな自然環境の中で生まれた人々の信仰や、国号・天皇号の始まりなどを考古学の成果を活用しながら具体的に説明している。 ⇒古代史+α (P.33, 39, 47)</p> <p>◆現在の領土をめぐる問題については、我が国が、近代になって国際法に基づいて領土を画定し、現代にいたる歴史的な経緯を、本文はもちろん特設ページも使いながら丁寧に解説している。 ⇒本文ページ (P.176-177, 259, 265) ⇒歴史を掘り下げる (P.178-179)</p> <p>◆各時代を実感できる史跡・文化財を豊富に紹介するほか、先人の姿を生き生きとえがいて、通史学習を豊かなものとしている。 ⇒歴史を掘り下げる (P.77, 201, 220-221) ⇒でかけよう！地域調べ ⇒+α (P.43, 111, 125) など</p>	<p>⇒P.2-5 P.29</p> <p>⇒P.6-9</p> <p>⇒P.8-9 P.27</p> <p>⇒P.10-11</p> <p>⇒P.6 P.26</p> <p>⇒P.6-9 P.11 P.26-28</p> <p>⇒P.6-9 P.16-17 P.27</p> <p>⇒P.10-11 P.27</p> <p>⇒P.16-17</p>	
	<p style="writing-mode: vertical-rl;">組織・配列・分量</p> <p>⇒我が国の歴史の大きな流れをつかむのに、効果的な組織・配列になっているか。</p> <p>⇒構成や分量は適切か。</p>	<p>◆各時代の学習では、学習のねらいを定め、生徒の課題意識を育成する「導入」が充実している。また、各時代の前半に「時代の転換」をとらえる学習活動が配置され、「導入」に対応する「まとめ」では、習得した知識を活用してその時代を大観し、時代の特色を大きくとらえることを目的とした学習活動を配置しており、こうした構成を原始・古代から現代まで一貫している。</p> <p>◆全体を「歴史のとらえ方」「古代までの日本」「中世の日本」「近世の日本」「近代の日本と世界」「現代の日本と世界」の6編構成とし、詳細な学習に陥ることがないように、学習内容の構造化と焦点化を図っている。108時間の授業時数で学習が完結できるようにしており、これは、学習指導要領が示す歴史的分野の授業時数130時間からいって妥当な分量である。</p>	<p>⇒P.2-5</p> <p>⇒P.2-3 P.29</p>

検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所
<p>正確性</p> <p>⇒文章および図版等の表現は正確か。</p>	<p>◆本文や写真・地図・グラフ・イラスト等の図版類すべてにわたり、内容はもとより、用語の一つ一つまでも細心の注意を払うとともに、きわめて正確で信頼できるものになっている。</p>	<p>⇒P.18-19 P.20-21</p>
<p>内容の程度</p> <p>⇒小学校社会科との連携や、生徒の発達段階に対して、どのような配慮がなされているか。</p> <p>⇒地理や公民との関連について、どのような配慮がなされているか。</p> <p>⇒生徒の主体的な学習や自学自習に対して、どのような配慮がなされているか。</p>	<p>◆第1編や各時代の「導入」の年表、本文ページ脚注の「連携コーナー」において、小学校で学んだ人物・文化遺産などを再確認できる構成にしている。生徒が、既習事項をふまえて、スムーズに中学校の歴史学習に移行できるように工夫している。</p> <p>⇒第1編 (P.6-13) ⇒「導入」の年表 (P.16, 60, 98, 148, 206, 246)</p> <p>◆生徒に思考・判断・表現をさせる学習では、空欄への語句記入・選択方式・自由記述などと発達段階を考慮した解答方式になっている。語句記入や選択方式の基礎問題については、教科書の巻末に解答例が掲載されており、生徒が自ら確認できる配慮がある。</p> <p>◆地理・公民との関連を考慮した内容構成となっている。「連携コーナー」のほかにも、地理との関連では、地図を多用して、空間的な見方から史実を的確にとらえる能力を育成しようとしている。公民との関連では、現代社会の諸課題について、その歴史的背景を明らかにし、公民の学習につながるように構成している。</p> <p>◆身近な地域の歴史を調べる学習として、「でかけよう！地域調べ」が設定され、歴史学習を楽しく、豊かにする作業的・体験的な学習例が豊富に紹介されている。史跡見学や博物館見学のやり方のほか、歴史新聞づくりなどの表現活動例が具体的に示されており、他地域も調べ方・学び方を参考にできるよう配慮している。</p> <p>◆「さくいん」は、人名・事項のほかにテーマ別 (政治、経済・社会、文化、外交)が新設され、巻末の「歴史学習の基礎資料」には「土地制度の移り変わり」が新設されるなど、生徒の主体的な学習をささえる基礎資料が拡充されている。</p> <p>⇒さくいん (テーマ別: P.294-295) ⇒歴史学習の基礎資料 (P.IV, 12, 281-286)</p>	<p>⇒P.12-13</p> <p>⇒P.4-5</p> <p>⇒P.12-13</p> <p>⇒P.6-9 P.16-17</p> <p>⇒P.17</p>
<p>表記・表現</p> <p>⇒カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応や、表記・表現について、どのような工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⇒装丁にはどのような工夫がなされているか。</p>	<p>◆特別支援教育・カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受け、すべての生徒が等しく情報を読み取ることができるように、配慮が行きわたっている。</p> <p>◆本文は、原則1授業時間＝見開き2ページとなっており、紙面は学習内容を理解しやすいように、授業や生徒の思考の流れに即したレイアウトで構成されている。</p> <p>◆本文ページの左端には、「時代・世紀のスケール」を添えてあり、生徒が学習している時代や世紀を前後の時代も含めて常に確認できる工夫がなされている。</p> <p>◆文字は適切な大きさや行間を考え、視認性の高さで実績のある書体を使用している。</p> <p>◆本文は平易な文章で、抽象的・網羅的な記述を避けて、具体的に記述している。</p> <p>◆漢字の使用は、細心の注意を払い、小学校で未習の漢字や、固有名詞などは見開き2ページの初出にふりがなを付し、読みまちがいのおそれがあるものや人名等については教育漢字であっても極力ふりがなを付して、読み取りやすくしている。</p> <p>◆ふりがなは、大きめのゴシック体を使っており、視認性を高める配慮をしている。</p> <p>◆重要語句は太字にして、全てふりがなが付されている。ていねいな解説をした側注も充実し、振り返りと広がり意識した参照ページが随所に付され、内容理解の促進が図られている。</p> <p>◆図版には番号を付すとともに、本文にも関連する図版番号を添えており、本文と図版を関連して読み取らせるようにしている。</p> <p>◆時代区分や年代のあらし方を説明する教科書P.12に各時代の色が示され、目次から第1～6編、巻末折込年表にいたるまで、時代の色を統一して示している。</p> <p>◆系図や地図・グラフ等の図版類は、カラーバリエーションに配慮した配色にするほか、形や模様、線の種類など、色以外の情報でも識別できるように配慮している。</p> <p>◆表紙の装丁は、歴史的分野の内容に即した世界的にも重要な文化財などのイラストを大胆に配置している。歴史を現在、日本と世界、先人と私達とのつながりを想起させて親しみやすく、かつ生徒の学習意欲を喚起するものとなっている。</p>	<p>⇒P.18-19 P.20-21</p>
<p>印刷・製本・その他</p> <p>⇒耐久性や人や環境への配慮がなされているか。</p> <p>⇒拡大教科書について</p> <p>⇒デジタル教科書について</p>	<p>◆印刷は、植物油インキを使用している。また、製本には化学物質過敏症の原因物質は使用せず、再生紙を使用して人体や環境への影響を少なくしている。</p> <p>◆製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、針金綴じよりも大きく開き、かつ閉じにくい本になっている。また、良質で軽い紙を使用して重量をおさえるとともに、長期の使用に耐えうるよう配慮され、表面も汚れを防ぐよう加工している。</p> <p>◆本文が18, 22, 26ポイントの3種類の拡大教科書の発行が予定されている。</p> <p>◆教科書全ページを自在に拡大・縮小できる機能や豊富なコンテンツを収録したデジタル教科書の発行が予定されている。</p>	<p>⇒P.32-33</p>